6 好評を受けたバスツアー

観光がスィー（見る）からドゥー（行動する）へと言われて久しくなりますが、最近では、「るるぶ」、つまり「見る」、「食べる」、「遊ぶ」と言われるようになりました。

大型観光キャンペーンの期間中に設定された「石橋のふる里を訪ねて」というバスツアーでは、種山の石工集団の手による緑川流域の石橋群が一躍脚光を浴びました。バスに同乗した「全国の石橋を守る会」会長の郷土史家井上清一氏のユーモアを交えた説明を聞き、旅行者は今更ながら生活から生みだされた偉大な芸術に驚嘆したのです。また、「石橋めぐり」に清和文楽や産業祭を加えたツアーも好評を得ました。これには北九州方面からバス六台の人々の参加を見ました。特異な地方文化を見て買物をするといったツアーなのです。旅行客は上演される「絵本太功記」に感激し、婦人会手造りの二段式弁当に舌つづみを打ちました。山鹿温泉の朝市も買物ツアーとして大いに受けています。何よりも新鮮さと素朴さ、そして地元の人々との交流が魅力なのでしょう。こうした傾向をみてみますと、伝統ある日奈久温泉の朝市なども今後大いに売り出せるものと思われます。

7 これからの熊本観光

三回目を迎えた南こうせつサマーピクニックには今年も全国から約二万人の若者が集まりました。これまでの阿蘇の観光は火口に依存しすぎたきらいがあり、若者が集まる大草原のイメージは薄いものでした。特に阿蘇を知らない人には、自然の中で音楽やスポーツなどの活動のできるもう一つの阿蘇の姿を想像することが困難だったのではないでしょうか。しかし最近は阿蘇のイメージチェンジと滞留を図るため、久木野村の大規模年金保養基地や阿蘇町のいこいの村など大型施設の建設が進められています。民間のペンション、テニスコートなども着実に増加しつつあります。さらに、細川知事も機会あるたびにリゾート地の核となる野外音楽堂の建設を提案しています。

また、昨年から大いに脚光を浴びている芦北地域のうたせ船は、全国の大手旅行代理店の店頭に熊本を代表する風景として登場しています。

熊本にはその他、県北の装飾古墳、人吉球磨地方の仏教史跡など全国に通用する数多くの観光資源があります。そしてこのなかから二度にわたる観光キャンペーンを通して、かなり多くのものが全国の目を引き始めています。

こういう時期にこそ、観光関係者はなお一層の魅力ある演出に取り組み、一方県民も観光が地域の美しい環境づくりであり、産業振興と県民所得の向上につながることを認識する必要があるのではないでしょうか。

（観光振興課）

ツアーに組み込まれた清和文楽

くまもとの文化財

肥後琵琶

肥後琵琶は延宝二年（一六七四年）京都春野派の船橋検校が肥後の国へ下り、盲目の僧に教えたのが始まりだと伝えられている。その後、肥後の僧は京都の久我家を本所とする当道座に属したといわれているが、このような歴史を持つ肥後琵琶は古浄瑠璃の流れを汲むものと考えられている。

演目は地神経（ちじんきょう）の読経、荒神祓（こうじんばら）い、家を新築した際に行われるワタマシなどの宗教的なものと余興芸として古浄瑠璃系の「小粟判官照手姫（こあわはんがんてるてひめ）」「隅田川」、肥後の伝説をもとにした「菊池くずれ」、「柳川騒動」、チャリ物（滑稽物）として「酒餅合戦」、「魚づくし」など数多くある。

現在、伝承者は少なく、南関町の山鹿良之師、山鹿市の田中藤後師、熊本市の橋口桂介師など高齢者が若干残るだけである。国の選択無形文化財となったのを機に保存会が結成され、今日に至るまで、定期演奏会、後継者育成を行い、保存・普及につとめている。

（昭和48年3月27日　国選択無形文化財）